

進捗状況の概要 【1ページ以内】

<事業の目的・概要> 大学院レベルでの日中韓交流の中で、東アジアにおける公共政策・国際関係分野での英語による最高水準の学位プログラムをつくり出すという目的に近づくため、ソウル大学校・北京大学との間で単位互換を伴う交換留学、およびダブル・ディグリーの学位プログラムを実施した。三大学の関係教職員が集まるキャンパス・アジアの運営会議であるCAMPUS Asia Joint Academic Board Meeting にてキャンパス・アジアプログラムの活動内容を振り返り、今後の見通しについて協議した。

<共同実施科目> パイロットプログラムをさらに発展させ、プログラムの共同性を高めるための工夫について議論し、平成29年度は東京大学で「Campus Asia Pilot Joint Course」を実施した。また、三大学の共同実施科目である「CAMPUS Asia Joint Course」を、本大学院がイニシアティブをとり、パートナー校の先駆けとして平成30年度より設置することについて具体的に検討した。また、東アジアの国際関係および公共政策に関する課題を取り上げ、テーマや概要については3大学の協議を行うこと、三大学の教員がオムニバス形式で分担して授業を受け持つことについて合意するなど、三大学の連携強化が進んだ。

<BESETO Intellectual Dialogue> 平成29年度、三大学の院長が東アジアにおける学術連携のあり方についてのパネルディスカッション“BESETO Intellectual Dialogue 2017”を行い、学生の交流と同時に研究の交流も深めるためのプラットフォームづくりについての提案があり、キャンパス・アジアプログラムで培った教員同士の連携を研究協力でまで波及させる可能性が出てきた。平成30年度は東京大学にて学生のみならず一般にも開かれたBESETO Intellectual Dialogue 2018を行い、三大学の院長が朝鮮半島情勢と東アジアの国際政治・経済関係について議論することになった。

<ダブル・ディグリー、交換留学の実績> 派遣：平成28年度は4名の学生を派遣した。平成29年度は、12名の学生を派遣した。受入：平成28年度は事業開始後の受入はなかった。平成29年度は11名の学生を受け入れた（平成28年9月30日以前の実績を含めると平成28年度の派遣は8名、受け入れ12名）。受入学生に対して履修に関する指導、留学生旅行、日本語授業、留学生カウンセリングなどを行った。また受入学生の宿泊施設を借り上げ、宿泊施設を提供した。

<広報> 本事業のホームページを更新し、参加学生の声やニュースを掲載した。本事業を紹介する説明会を開催することにより本事業の周知活動を行った。大学院の広報委員会においてプログラムへの参加学生を増やすための検討を行い、フライヤーを更新し、キャンパス・アジアのホームページ改修について検討し、平成30年度に実施することとした。

<修了生ネットワーク> プログラム修了生の有志がFacebookのキャンパスアジアグループで呼びかけ、毎年30～40名の修了生・在校生が参加するプログラム同窓会を行っている。平成29年の同窓会において、BESETO CAMPUS Asia Alumni Networkを発足させた。平成30年度以降、本大学院では、修了生との連携の強化に力を入れることにした。

【本事業における中間評価までの交流学生数の計画と実績】

平成28年度				平成29年度			
派遣		受入		派遣		受入	
計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績
10人	4人	4人	0人	14人	12人	11人	11人

海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ以内】

北京大学国際関係学院、ソウル大学校国際大学院、東京大学公共政策大学院からなるBESET0コンソーシアムにおいて、プログラムの共同性をより高めるための試みを平成28年度より行っている。三大学の教員が企画段階から協働して、キャンパス・アジアプログラムの必須科目として共同実施科目の設置を目指し、協議を行ってきた。その結果、本来であれば三大学で学ぶキャンパス・アジア学生が物理的に一堂に会して三大学の教員が共同で一つの授業を提供できることが理想的であるが、主に学生の移動に伴う費用面での実現性に乏しいため、一つの開催大学で参加している学生を対象とし、教員を派遣し合うというスタイルを選ぶこととした。

平成28年度に東京大学独自で行っていたCAMPUS Asia Summer Programのスタイルをベースに、他の協定校に先駆けて東京大学にて、平成29年度CAMPUS Asia Pilot Joint Courseとして試行し、さらに平成30年度には改良を加え、CAMPUS Asia Joint Course : International Public Policy in East Asia（春学期授業、4単位）として実施することに合意した。

CAMPUS Asia Joint Courseの主な特徴は、1) キャンパス・アジアプログラムの必修科目として、参加学生が修了までにいずれかの大学で最低1度は履修できるよう工夫すること、2) 東アジアの国際関係および公共政策に関する課題を取り上げ、テーマや概要については3大学の協議を行うこと、3) 三大学の教員がオムニバス形式で分担して授業を受け持つこと（割合は主催大学教員6：招聘教員4程度）、4) TA主導によるディスカッションを奨励すること、5) 1学期間をかけて実施し、フィールドトリップを行うこと、などである。

東京大学での先駆的試みをモデル化し、他大学でも同じ科目名の科目を設置し、各大学における共同実施科目の実現に向けてさらに調整を行う予定である。

<http://catalog.he.u-tokyo.ac.jp/g-detail?code=5135030&year=2018&x=8&y=8>

ソウル大学校国際大学院



教員派遣

- ・キャンパス・アジアプログラムの必修科目として設定
- ・参加対象は東京大学に在籍するキャンパス・アジア学生
- ・テーマや講義内容を三大学で協議
- ・ソウル大、北京大より教員を招聘
- ・オムニバス形式の特別授業
- ・ビデオ会議システムによる遠隔授業の試行
- ・TA 主導のディスカッション
- ・フィールドトリップ(ソウル大、北京大の教員参加可能)

北京大学国際関係学院



教員派遣

東京大学公共政策大学院



CAMPUS Asia Joint Course の特徴 (東京大学で開催の場合)